

NPO 法人千葉自然学校 令和7年度 事業報告

■ヤックス自然学校（株式会社千葉薬品 受託事業）

年間を通じて週末や長期休暇に多彩なプログラムを展開し、新規参加者の獲得とリピーターの満足度向上に繋がりました。近年の猛暑に対しては、プログラム内容を見直し、安全に配慮した運営を行いました。今後も質の高い体験を届けるため、キャンプリーダーの確保と育成、そしてリーダーが継続できるような仕組み・関係性作りに注力してまいります。

事業件数：49事業（計画50事業）

稼働日数：123日（計画125日）

主な事業：

- ① 年間通じて、子ども（幼児、小学生、中高生）対象の自然体験プログラム
- ② ファミリー対象の自然体験プログラム（キャンプ教室、味噌作り体験、親子スキーツアー）
- ③ キャンプリーダートレーニング（NEALリーダー指導者養成含む）

年間参加者数：1,271名（目標：1,500人）

参加者延べ：3,261名（目標：3,500人）

リピーター率：64%（目標：50%）

ヤックス自然学校会員数：409名（目標：450名）



第49回サマーキャンプ
(1泊2日幼児・小学生対象)



キャンプリーダートレーニング
(イニシアティブゲーム)

■事業部：受託事業

行政、企業、旅行会社からの事業も継続性を持って取り組んでいます。特に学校関係の事業は4月、5月に集中するため、他事業と調整しながら外部スタッフも含めて可能な限り受入れられるようスタッフ配置に苦労しました。全国のクマ騒動の影響で旅行会社から教育旅行、宿泊体験先の変更等の問合せもありますが、思ったよりも少ない印象です。

事業件数：24事業（新規3事業、継続21事業）

主な事業：

- ① SDGs・探求学習をテーマとする教育旅行コーディネート 3事業
(宝仙学園小学校、都立三鷹中等教育学校、聖ドミニコ学園小学校)
- ② 学校・企業へ向けたチームビルディングプログラム 2事業
(国府台女子学院中部、日本大学第二高等学校)

- ③ 企業・団体の環境教育活動支援 6 事業
(ハウス食品グループ、コスモ石油、千葉薬品、日本財団・千葉テレビ)
- ④ 行政との協働事業 2 事業
(千葉県農林水産部農地・農村振興課、千葉県環境生活部)
- ⑤ 講師派遣、体験活動、NEALリーダー養成等 11 事業
(ふなばし市民大学、淑徳大学NEALリーダー集中講座等)



コスモ石油「学校の環境教育
支援プロジェクト」



聖ドミニコ学園小学校
卒業記念チャレンジキャンプ

■事業部：南房総市大房岬自然の家（指定管理）

千葉市内小学校の利用が事業内容変更に伴い終了し、宿泊者数の大幅な減少が予測された年度となりました。対応策として、方面変更を検討している川崎市内小学校の誘致を図り11校を誘致し赤字額を抑えることが出来ました。また、全国の海洋教育関係者が集う海辺の環境教育フォーラム 2025in 南房総を開催し、地域の学校で出前授業を行いました。

事業件数：主催事業 36事業 （計画58事業）

参加者数 506名

主な事業：

- ① 県内外小中学校、教育団体、一般団体 宿泊教育旅行受入
- ② SDGsをテーマとした日帰りの自然体験プログラム受入
- ③ 海辺の環境教育フォーラム2025in 南房総の運営

実績数値：利用者数 22,811人 （目標：25,000人）

宿泊者数 11,562人 （目標：15,100人）

団体数 195団体 （目標：220団体）



海辺の環境教育フォーラム 2025in 南房総



岬の学校 釣り

■事業部：千葉県立大房岬自然公園（指定管理）

ここ数年夏の猛暑が続き、7月～9月の期間のキャンプ場の利用者数や事業の参加者数にも影響が出ているとともに、公園内の生態系も少しずつ変化が生じています。夏以外のシーズンでの事業を拡充して利用者の確保に努めました。また、公園内の生態系の変化をしっかりと把握して環境整備を行い、体験活動の指導でもその変化を伝えていっております。

事業件数：主催事業 29 事業 （計画 42 事業）

参加者数 724 人

主な事業：

- ① キャンプ場利用受入
- ② 来園者の安全と自然環境の保全を両立させた園内の環境整備
- ③ 参加者のニーズに合わせた主催事業企画運営

実績数値：公園来園者数	112,124 人	（目標：120,000 人）
キャンプ場利用張数	3,005 張	（目標：3,350 張）
主催事業参加者数	724 人	（目標：800 人）



園内ガイドツアーの様子



主催事業 キャンプファイヤー

■事業部：千葉県立君津亀山青少年自然の家（指定管理）

7月・8月の最繁忙期に利用団体の直前キャンセルや利用人数の減少が多くあり、利用者数、宿泊者人数は昨年度と比べ減少しました。一方で新規の学校利用が複数あったため、継続的に利用いただけるよう満足度の向上を重点項目として掲げた運営を行いました。主催事業においては、地域に残る風習を体験する「お月見どろぼう」が第7回ちば講座アワードにおいて「千葉県私立大学短期大学協会長賞」を受賞しました。

事業件数：主催事業 34 事業 （計画 48 事業）

参加者数 1,671 名

主な事業：

- ① 「ファミリー野遊び教室」海や川遊びなど野遊びをテーマに複数回実施
- ② 「はぐくみの杜君津コラボ事業」児童用施設との共催事業
- ③ 「お月見どろぼう ～月の小さな使者参上！～

実績数値：利用者数 31,792人 (目標：34,909人)
 宿泊者数 14,743人 (目標：16,236人)
 団体数 379団体 (目標：422団体)



ファミリー野遊び教室
 リバーウォーキング



お月見どろぼう
 ～月の小さな使者参上！～

■地域協働部：ちば・体験活動ネットワーク事業

ニュースレター、Facebook などによる記事・情報のシェアや講師等の人材派遣、プログラムの協働実施、企業・行政の受託事業の受入先などを積極的に行って来ました。

主な事業：

- ① 団体会員の Facebook（活動報告、活動案内）を当校の Facebook で随時シェアして、広く社会に情報発信していく。シェア 733 回（令和 8 年 3 月 31 日現在）
- ② 団体会員（北総エリア 12、上総エリア 4、南房総エリア 8 計 24）とエリア担当の情報交換や共有、協働事業が出来やすい環境を整える。ニュースレターなどの情報発信ツール紹介、各種情報提供。



会員校との協働事業
 宝仙学園小学校体験コーディネート
 （NPO 法人大山千枚田保存会）



会員校との協働事業
 はぐくみの杜君津 沖の島シュノーケリング
 （NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団）

■地域協働部：古民家ろくすけ事業

継続的な事業となった地元富山学園中等部の生徒が味噌づくりに訪れ、J R岩井駅や道の駅で味噌販売を行い、その収益は次年度に行う活動費として先輩から後輩へと受け継がれています。

また、県受託事業の農村ステイで訪れた県立茂原樟陽高等学校の生徒が日帰り、1泊2日で味噌の作り方を学びました。作られた味噌の一部は富山学園中部に無償提供され、県内農業高校と地元中学校の繋がり持続されています。

母屋の茅替えの時期となり資金面での調達、茅材不足、職人不足等、古民家維持が今後の課題です。

主な事業：

- ① ヤックス自然学校の主催事業ホームステイ（20日／7回）の受入
- ② 一般利用一棟貸し、日帰り利用の受入（29日／13団体）
- ③ フィルムコミッションや独自の広報による撮影利用の対応（3企業）
- ④ 地域産物の加工販売、郷土料理・加工体験の実施
味噌づくりの受入（一般 12回、南房総市立富山中学校 1回59人）
- ⑤ ろくすけの会による物置小屋、カヤ置き場の製作と設置（15日）
- ⑥ 平群ツーリズム協議会、「ろくすけの会」、シニア自然大学、地域団体等と連携した地域活動（平群フードフェス@旧平久里小学校（5/17）、平久里下地区ゴミゼロ運動（5/24））
- ⑦ 千葉県農林水産部農地・農村振興課の受託事業中山間ふるさと活性化チャレンジ事業農村ステイの受入（1泊2日1回）
農村ステイ味噌づくりの受入（1泊2日3回、日帰り3回）
企画実践日本茜の定植@成田西陵高等学校の受入（1泊2日1回）
- ⑧ 母屋北側屋根のカヤ替え作業（3月22日～）

稼働日数：約70日間



一般利用一棟貸し



南房総市立富山中学校
味噌づくり

■地域協働部：体験農園 IN 岩名

NPO法人佐倉みどりネットのスタッフが中心になって継続した事業を展開することが出来ました。

主な事業：NPO法人千葉自然学校は受付業務を担当する。

体験農園の事業：NPO法人佐倉みどりネットが主体的に実施する。

- ① 作付け講習会 9回
- ② 勉強会・メンテナンス 2回

目標数値：28区画中22区画の利用（2024年から継続21組、新規1組）

■千葉シニア自然大学

13年目を迎えるシニア大学ですが、社会的に退職年齢が遅くなり規模は縮小する中でも今年度は受講生が34名と多くの方々にご参加いただきました。

主な事業：第13期（2コース）

1）本科コース（17講座／41単位）：

受講者数：22名

① ちばの里山里海の自然・保全・活用を学ぶ（8講座20単位）

② 地球・天文・宇宙のしくみを学ぶ（8講座20単位）

③ 体験活動講座（1講座1単位）

2）自然と俳句コース（全10回、内2回の吟行を含む）

受講者数：12名

■総務・広報部

①ホームページやSNSを活用した情報発信

②新聞社・新聞記者等をマスメディアへの積極的な取材依頼

③積極的な給付金、助成金等の活用

④働きやすい環境・職場の追求